

この街が
好きだから

大須賀一雄

武蔵野スケッチ物語

④8



見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

吉祥寺南町二丁目にて

今回の作品は、表題の付近で満開の桜を愛でながら描いたものである。実は、私は絵のほかにも好きなことがあり、その一つが英語以外の語学の勉強である。現在フランス語を学んでいるが、他にもドイツ語、ロシア語など、いずれもものになっていないが、繰り返し挑戦している。

何故語学を学んでいるかというと、私なりの理由がある。私はよく東京駅など、都内各地で絵を描いているが、写生中時折外国人に英語で声をかけられることがある。その際、発音などから英語が母国語ではないと分かる、何処から来られたかを聞き、もしフランス人だと分かると、直ぐにフランス語に切り換える。その際、相手が示す表情の変化が面白く、これが語学を続けている理由のひとつになっている。私的には、これは細やかな国際親善だと思っているのだが……。

(絵と文 大須賀一雄)

大須賀一雄 (おおすか・かずお)

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』(日貿出版社)、『スケッチお手本帖』(素朴社)ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も25回を超える。